



くらもとたかふみ
藏本隆文議員

今後のまちづくりの方向は

議員 2025年問題の影響をどのように考えているか。

市長 少子高齢化が進むことで、公的な福祉サービスを維持することに限界がでてくると考える。

議員 所信表明にある、住民自治による「小さな市役所」をどのように機能させるのか。

市長 住民自治による小さな市役所を機能させるためには、まちづくり計画を地域ごとに策定し、計画をPDCAサイクルで着実に実施、持続可能な活動としていくことが求められる。活動の情報開示も必要である。財源として、まちづくり交付金を想定し、小さな市役所が実現できれば、職員の削減等が可能であると考ええる。



市民病院の建て替えは

議員 市民病院について、建て替えるの有無、建て替える場合の手法、医師確保、赤字体質改善をどのように行うかたずねる。

市長 笠岡駅南地区の再開発計画があり、候補地の一つと考えている。赤字体質を改善することは大変厳しいが、患者さんの積極的受け入れや経費削減などに努める。

議員 今期は交付税分を除くと実質で約5億6千万円の赤字である。市民にとって、医療体系が充実しているなら、市民病院にこだわらず、民間病院を持つてくることも考えられるのではないか。

市長 医業損益をゼロに持っている経営をし、市民病院を維持していきたいと考える。

指定ごみ袋全て有料化になるの？



たぐちただよし
田口忠義議員

議員 笠岡市廃棄物減量等推進審議会が答申した内容は、最終目標

年度の来年度には成果が出るよう、1枚目から単純従量制（全てのごみ袋の有料化）を導入することが望まれるとのことであった。

私は昨年3月に、「ごみの量は家庭系6割・事業系4割であり、家庭ごみは指定袋制度導入後、激減しているが、事業ごみは十数年間全く減っていない。家庭のみへの負担増は不合理且つ公平性に欠けており、事業者への徹底と、ごみ処理手数料の見直し等もすべき」と申し上げた。その後の状況はどうか。

市長 答申を尊重しつつ、市民の皆さまのご意見、また他市町村の施策等を総合的に勘案し、ごみの減量化の効果が期待できるごみ袋制度を検討している。



そして、家庭と事業所が一体となつてごみの減量化、資源化に取り組み、環境に優しい循環型社会の構築に努めていく。

議員 今年5月に排出量の多い事業所を中心に減量化の具体的な対策検討を始め、ごみ処理手数料の見直しについては施設組合へ依頼していることだが、市長が述べられるスピード感が欠落している。双方の速やかな減量を期待する。

道の駅交差点の交通事故撲滅策を速やかに望む

議員 国・警察・本市協議のもと、昨年暮れに交差点が改良されたが、その後の状況についてたずねる。

市長 その後5件の事故（内、死亡事故2件）が起きた。岡山国道事務所で更なる交差点改良や信号機の設置などを検討している。